

子育て支援者へのグループヒアリング調査

1. 調査の概要

(1) 目的

保育所・幼稚園・児童会館等の現場スタッフ及び子育て支援を行っている市民活動団体関係者から、子育て支援の現場における本音を引き出すこと。

(2) 実施日時：平成 31 年 2 月 17 日（日）14:00～17:00

(3) 会場：札幌市役所本庁舎 12 階 3 号会議室（札幌市中央区北 1 条西 2 丁目）

(4) 参加者

○保育所・幼稚園・児童会館等の現場スタッフ及び子育て支援を行っている市民活動団体関係者 15 名。内訳は下記のとおり。

- ・保育士 : 5 名
- ・幼稚園教諭 : 4 名
- ・児童会館スタッフ : 2 名
- ・民間児童育成会関係者 : 1 名
- ・市民活動団体関係者 : 3 名

(5) 実施方法

○「グループワーク Q&A 方式」にてグループヒアリングを行った。その手順は下記のとおりである。

- ①参加者に 5 名の A～C グループ（テーブル）に分かれてもらい、各テーブルにインタビュアー 1 名を配置。
- ②インタビュアーは質問票を提示し、参加者はそれに応じた回答を手元の付箋に記入。
- ③記入後、各参加者は順番に模造紙（ワークシート）に付箋を貼り付けながらその内容を説明。
- ④インタビュアーは必要に応じて補足質問を行い、回答内容を付箋でワークシートに追記していく。
- ⑤参加者同士の会話（同意・反論、補足等）についても、インタビュアーは付箋にて記録。

○グループ分けは、下記のように行った。

グループ	種別	人数
Aグループ	保育士	1名
	幼稚園教諭	1名
	児童会館スタッフ	1名
	市民活動団体関係者	2名
Bグループ	保育士	1名
	幼稚園教諭	1名
	児童会館スタッフ	1名
	民間児童育成会関係者	1名
	市民活動団体関係者	1名
Cグループ	保育士	3名
	幼稚園教諭	2名

(6) その他

○参加者にはグループヒアリング参加の謝礼として3,000円相当のクオカードを差し上げた。

2. グループヒアリング風景



主催者挨拶



グループヒアリングの進め方を説明



グループヒアリング風景



グループヒアリング風景



会場の全体風景

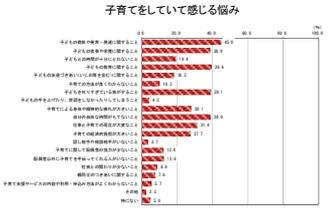


作成したワークシート

3. ヒアリング設問シート

質問項目や質問に関するアンケート調査結果を記した下記の A3 判のシートを参加者に提示しグループヒアリングを行った。なお、A・B グループ、C グループで若干異なった質問項目を設定している。

<A・B グループ用>

<p>ヒアリング設問シート ～子育て支援者向け A、B～</p>  <p>0</p>	<p>Q1 (自己紹介:職業、お名前… を言った上で)</p> <p>現在の仕事で一番やりがいを 感じることはなんですか？</p> <p>1</p>	<p>Q2</p> <p>日々接しているお子さん・ 親御さん、子育て世帯を 取り巻く環境について、 以前と比べて特に変わってきたと 感じていることがあれば 教えてください。</p> <p>2</p>
<p>Q3 (アンケート結果:「子育てを して感じる悩み」を見て)</p> <p>子育て支援をしていて、 特に問題・重要だと思った 「悩み」の内容を教えてください。</p> <p>3</p>	<p>子育てをして感じる悩み</p>  <p>4</p>	<p>Q4</p> <p>(1)日々お子さんや子育て世帯と 関わっていて、どのような もどかしさ、大変さ、困難さを 感じますか？ (2)それはどうすれば 解消できると思いますか？</p> <p>5</p>
<p>Q5</p> <p>(1)最近のお父さんは積極的に 子育てに関わっていると 思いますか？ (2)どうすれば/どうい う働きかけがあれば、 お父さんは今より積極的に 子育てに関わるようになると 思いますか？</p> <p>6</p>	<p>Q6</p> <p>保育士や幼稚園教諭の 離職防止や就職促進のための 取組/子育て支援活動を 継続していただくために必要な 取組として、良いアイデアが あれば教えてください。</p> <p>7</p>	<p>Q7</p> <p>子育て支援者同士・他の 関係機関とのつながり・ 連携について、課題だと 思っていることを 教えてください。</p> <p>8</p>
<p>Q8</p> <p>子育て世帯に対する支援として、 (より)必要だと思う取組を 教えてください。</p> <p>9</p>	<p>Q9</p> <p>最後に、子育て・子育て支援に 関して「札幌市にこれだけは 訴えたい！」ということがあれば。</p> <p>10</p>	

<Cグループ用>

<p>ヒアリング設問シート ～子育て支援者向け C～</p>  <p>0</p>	<p>Q1 (自己紹介:職業、お名前… を言った上で)</p> <p>現在の仕事で一番やりがいを 感じることはありますか？</p> <p>1</p>	<p>Q2 現在の勤務園／所で 働こうと思った理由・きっかけは なんですか？</p> <p>2</p>
<p>Q3 日々接しているお子さん・ 親御さん、子育て世帯を 取り巻く環境について、 以前と比べて特に変わってきたと 感じていることがあれば 教えてください。</p> <p>3</p>	<p>Q4 札幌市では待機児童の解消に 向けて、保育所や認定こども園の 整備等により利用定員の拡大に 取り組んでいます、 それによって、子育て支援の 現場にどのような変化が ありましたか？</p> <p>4</p>	<p>Q5 (1)日々お子さんや子育て世帯と 関わっていて、どのような もどかしさ、大変さ、困難さを 感じますか？ (2)それはどうすれば 解消できると思いますか？</p> <p>5</p>
<p>Q6 (1)最近のお父さんは積極的に 子育てに関わっていると思 いますか？ (2)どうすれば／どういう 働きかけがあれば、 お父さんは今より積極的に 子育てに関わるようになると 思いますか？</p> <p>6</p>	<p>Q7 保育士や幼稚園教諭の 離職防止や就職促進のための 取組について、良いアイデアが あれば教えてください。</p> <p>7</p>	<p>Q8 特に中高生が、将来の職業として 保育士や幼稚園教諭を さらに目指すようになるような 取組について、良いアイデアが あれば教えてください。</p> <p>8</p>
<p>Q9 子育て世帯に対する支援として、 (より)必要だと思う取組を 教えてください。</p> <p>9</p>		

4. グループヒアリング調査結果の概要

Q1 現在の仕事で一番やりがいを感じることはなんですか？

○多くの方が「子どもの成長を感じられること／見られること」を挙げられている。

Q2【Cのみ】 現在の勤務園／所で働こうと思った理由・きっかけはなんですか？

○一度退職した保育士・幼稚園教諭については、知り合いの「園長が声をかけてくれた」など、知人からの声掛けによる再就職が多いようである。

Q2【A・B】/3【C】 日々接しているお子さん・親御さん、子育て世帯を取り巻く環境について、以前と比べて特に変わってきたと感じていることがあれば教えてください。

- 「働くお母さんが増えた（共働き）」「共働き世帯の増加」のためか、「しつけ全般が園任せになっている」「トイレトレーニング、離乳食など、丸投げ」の親がいるとの指摘がある。
- また、「ネットの情報にとらわれすぎている」「LINEで親同士つながる」など、インターネットによる情報収集・コミュニケーションが行われていることについての指摘もされている。

Q3【A・Bのみ】（アンケート結果：「子育てをされていて感じる悩み」を見て）子育て支援をしていて、特に問題・重要だと思った「悩み」の内容を教えてください。

- 「悩み」の内容については概ね「就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査」で上位に出された事柄が挙げられた。
- その解決方法として「地域で子育て支援が行われるとありがたいと思う」「相談相手がいない」「その家族に寄り添って気軽に相談に乗ってくれる人がいない」「少しでも親の相談にのれるよう個別に対応している」「悩みを吐き出せる（共有できる）場所を作る」というように、相談・悩みを聞く場・人の必要性について言及されている。

Q4【Cのみ】 札幌市では待機児童の解消に向けて、保育所や認定こども園の整備等により利用定員の拡大に取り組んでいます、それによって、子育て支援の現場にどのような変化がありましたか？

- 問いかけられた保育士全員から「現場では保育士不足」「先生がいないのが一番の問題」との声が上がった。
- 幼稚園教諭からは逆に「子ども一人一人を良く見たいので定員を減らしている」との回答も聞かれた。

Q4【A・B】/5【C】（1）日々お子さんや子育て世帯と関わっていて、どのようなもどかしさ、大変さ、困難さを感じますか？（2）それはどうすれば解消できると思いますか？

- 「保護者の休日・時間の保障を国がしていく必要がある」「時間的余裕」「子ども達の様子を見る時間を保護者に！」「親と子どもの時間が取れるようにすることで子どもが落ちつくこともある」など、親が子どもと接したり、子どものことを知る時間のなさ・大切さを4名が挙げている。

Q5【A・B】/6【C】 (1)最近のお父さんは積極的に子育てに関わっていると思いますか？(2) どうすれば／どういう働きかけがあれば、お父さんは今より積極的に子育てに関わるようになると思いますか？

- (1)については15名中14名が「YES」「概ね関わっている」などと肯定的な回答であった。
- (2)については「休みやすい環境。時間の余裕」「育休等が当たり前にとれるように」「働き方改革」「父も育児時間がとれる国を目指して」など、父親が育児に参加できる時間を作る社会・制度の改革に関する意見が多く挙げられている。
- また、「おやじの会」「土曜日にお父さんが来やすい仕掛けを作る」「行事へのお誘い。飲み会など」「お父さんが参加したくなるような行事を考える」など、父親が参加する仕組み・イベントなどのアイデアも挙げられている。

Q6【A・Bのみ】 保育士や幼稚園教諭の離職防止や就職促進のための取組／子育て支援活動を継続していただくために必要な取組として、良いアイデアがあれば教えてください。

- 問いかけた10名中7名が「賃金アップ」「一般的な給与水準の2割以上高くないと」「給料を上げる」など、給与アップの必要性を挙げている。

Q7【A・Bのみ】 子育て支援者同士・他の関係機関とのつながり・連携について、課題だと思っていることを教えてください。

- 「小学校の連携が増加してきた」「連携があるのは、親父の会や学校・幼稚園・高齢者施設・プレーパークなど」「区との連携は良くできていると思う」など、必要と思われる関係者同士の連携はすでになされていることもあり、「子育て支援者同士・他の関係機関とのつながり・連携」の少なさ・なさについて、大きな問題意識を持っている旨の発言は聞かれなかった。

Q7【Cのみ】 保育士や幼稚園教諭の離職防止や就職促進のための取組について、良いアイデアがあれば教えてください。

Q8【Cのみ】 特に中高生が、将来の職業として保育士や幼稚園教諭をさらに目指すようになるような取組について、良いアイデアがあれば教えてください。

- Q7、8は別々の設問として設けたが、参加者から「答えは同じ」との指摘があったものである。
- 聞いた5名中4名が「給料を上げて」「賃金アップ」と回答した。
- 1名の幼稚園教諭からは「中高生のインターンシップ。幼稚園先生、保育士は遊んでいるだけのイメージが持たれている。それを変えるための取組としてインターンやボランティア体験は大切」との指摘もなされている。

Q8【A・B】/9【C】 子育て世帯に対する支援として、（より）必要だと思う取組を教えてください。

- 「多様化するニーズに応えられる受け皿をつくること」「利用できる支援の拡大」という意見に代表されるように、「病児保育の充実」「子どもと関われる時間の確保」「寄り添う子育てサロンの継続」「悩みを吐き出せる人や場所を用意する」「子どもを遊ばせることができる屋内施設」「経済的支援」など、多様な事柄が出されている。

Q9【A・Bのみ】 最後に、子育て・子育て支援に関して「札幌市にこれだけは訴えたい！」ということがあるらば。

- 保育士、幼稚園教諭からは「人件費増加」「札幌市独自の手当とか」「具体的には保育士を増やしてほしい」など、給与増や人の増加に関する意見が出された。

5. グループヒアリング全回答結果

Q1 現在の仕事で一番やりがいを感じることはなんですか？

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューアーによる補足)
A1	保育士	卒園した後も地域の子育て支援者として <u>子ども達の成長を見られること</u>
A2	幼稚園教諭	<u>子どもの成長が感じられた(見られた)時</u> 。職員が育っていると感じられた時
A3	児童会館	<u>子ども達ができなかった事ができるようになった時の笑顔を見た時</u>
A4	NPO等	子育てサロンで元気がなかったお母さんと話をして笑顔で帰った時。言葉がなくても、子ども達と心が通じ合うこと〔深刻そうな場合は、区の保健師さんにつなぎ相談を行う。お母さんが元気になっていく様子が感じられる〕
A5	NPO等	市内・道内の支援者の皆さんと一緒に学び合い、大切なことを共有できた瞬間。 <u>子どもの成長を中心に、親も支援者も地域も一緒に育ちあっていると感じた瞬間</u> 〔今年度は年12回(のべ598名)講座を実施。テーマは「子育てを支える地域社会資源」「子どもの発達」「支援のあり方」など〕
B1	保育士	<u>子どもの成長を感じられた時(心の成長)</u> 〔交流会などで卒園者(小6・中3生)から「ありがとう」と言われる〕
B2	幼稚園教諭	<u>子ども達の心の成長を感じることが出来る</u> 。保護者の方々とその子に関する共通理解ができたと感じること〔小さいころ、分からなかったことを理解してくれる。親も初めての保育だと緊張している。親も子どもと共に成長している〕
B3	児童会館	子どもが楽しんでる様子を保護者が知って、理解と感謝の言葉をいただいた時〔初めて感じたのは勤務してから数年経った時(中学卒業した子から「ありがとう」と言われた)〕
B4	児童会館	<u>様々なことを吸収し急速に成長する様子(成長過程)を見れること</u> 〔小学1~6年まで見るので家族のような感覚。中学以降は見れないのがさびしい〕
B5	NPO等	利用会員と提供会員の橋渡しがうまくいった時〔直接・間接(電話・アンケート等)で感謝の言葉を聞いた時〕
C1	保育士	<u>子ども達の成長を感じられた時</u> 。子ども達の笑顔〔お弁当を布で包むようになったと、子どもからお母さんに伝えられたこと〕
C2	保育士	<u>子どもの成長を感じられた時</u> 。子どもの笑顔が見られた時〔信頼関係ができた・通じ合ったと思った時〕
C3	保育士	<u>子どものひとつひとつの成長を身近に感じられること</u> 〔0歳児担当。ある時、「先生」と呼んでくれるようになった〕
C4	幼稚園教諭	子どもが関わる中で、笑顔になれる時。2歳児と一緒にお片付け〔名前を呼んでくれたり、ニコッと笑ってくれたり〕
C5	幼稚園教諭	<u>子ども達の成長を目の当たりにした時</u> 〔3歳児担当。4月は泣いていた子どもが、元気に外で遊んでいるのを見て〕

Q2【Cのみ】現在の勤務園/所で働こうと思った理由・きっかけはなんですか？

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューアーによる補足)
C1	保育士	市に履歴書を出していて、たまたま今の園から連絡が来た。行ってみて良かったので続いている〔最初は産休者の代替として〕
C2	保育士	(1)正規採用だったので。(2)一度退職したが、その時、園長と話し、パートと正規職員、自分に合った採用をしてくれると言ってもらえた〔園長が声をかけてくれた〕
C3	保育士	親に言われてひとつ受けてみたら受かってしまった〔ずっと正規職員。育休も取れるから。同じところでずっと〕
C4	幼稚園教諭	短大から現在の姉妹園を結婚退職後、今の理事長に「手伝って」と言われた。子どもと関わるのが楽しいと思っていたのでOKした〔最初はパート。現在は正規職員〕
C5	幼稚園教諭	<u>自分の子どもが卒園した園だったので、園長から声を掛けられた</u> 。子育てサポートを自宅ですしていたが、集団で保育をしたいと強く感じたから〔最初はパートから。「子育てサポート」への疑問。「親のためになっているのだろうか?」〕

Q2【A・B】/3【C】 日々接しているお子さん・親御さん、子育て世帯を取り巻く環境について、以前と比べて特に変わってきたと感じていることがあれば教えてください。

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアールによる補足）
A1	保育士	地域に知り合いがいない人が増えてきた（札幌市外、道外）。 <u>社会進出している母親が増えてきた（キャリアアップ、フルタイム）</u> 。家庭養育がかなり低下している。 <u>しつけ全般が園任せになっている</u> 。欲求不満が増えてきた。支援を必要とするお母さんが増加している〔しつけ全般とは、箸の持ち方などから。孤食が増えたり、箸を使えないからおにぎり食になり、手づかみしかできない子どもたちもいる。朝食無しのお子さんが増えた。私たちの園は認定こども園であるが、保育所タイプの子どもたちが多く、長時間園にいる子どもが多い。生活習慣が身に付きにくい。しつけの問題なのか、発達障がいなど脳機能の問題なのか見極めるのが難しい。子ども時代から子育てに関わる機会をつくる必要があると感じる。子育ての感覚がつかめない様子が見受けられる〕
A2	幼稚園教諭	行事にお母さんだけでなく、お父さん双方の祖父母が来園することが多くなった。叔父さん叔母さんも珍しくない。よいことではあるのだが、問題もある。 <u>働くお母さんが増えた（共働き）</u> 〔行事の実施日にはスペース不足になり、路上駐車問題も発生する。園児のお母さんのうち、3分の1はフルタイム勤務。300人のうち3～5歳が100人を占める〕
A3	児童会館	児童クラブ登録員の増加。子ども達の自由な時間が少ない。 <u>共働き世帯の増加</u> 。配慮が必要な児童の増加〔児童クラブは定員制限が無い。申し込みがあったら基本受け入れている。170人くらいまでは受け入れられるが運動などはしにくくなる。おおむね毎日約50人～100人くらいが通っている。大体8人のスタッフでみている。豊平区の子育て世帯が多い地域なので、新たなマンション建設なども進んでいるので、今後が心配。親育ちしていない。心配な子どもについて相談しようと話しても、心配な子どもをもつお母さんには特に伝わらない〕
A4	NPO等	<u>LINEなどを活用しお母さん同士でつながっている</u> 。（良い点）相談に乗ったり、いろいろな情報を得ることができている。 <u>ネットの情報にとらわれすぎている</u> （〇ヶ月だから〇〇できていないと…）
A5	NPO等	子どもと関わる経験がないまま親になっている人の割合が高くなっている。父親の育児参加の意欲が高まっている。格差の拡大。 <u>余裕のなさ</u> 。格差社会が広がっている。アスファルトとコンクリートの前で育っている子どもがさらに増加。多様な家族の増加。転勤族など、アウェイ育児をしている人の増加（全国で72%。円山地区では85%）。預かってくれる人や手助けしてくれる人がいない家族が多い〔ひとり親の増加、ステップファミリー（再婚家庭）の増加も感じる〕
B1	保育士	仕事と子育ての両立の難しさ。保護者同士のつながりがある一方で孤立する保護者も。気になる子どもが増えている〔仕事の影響で保育時間が長い（段階的に）。 <u>LINEで親同士つながる一方、つながりを拒む親も（障がい児・アレルギー児童の親に多い）</u> 〕
B2	幼稚園教諭	子どもに対して物質的に豊かにしてあげたいと思う親が増えた。 <u>「社会」に送り出しているという意識を持たず、とにかく預けてくるケースが多い</u> （「楽しく通ってくれれば…」という希望しか出てこない）。個別対応を望む保護者の増加（特別でありたいと望んでいる？）〔物質的な豊かさを追求。持ち物を通して「そういう子」として見てもらいたいと考えている？20年前は特定の職種の親が豊かさを追求していたが、今はそれ以外の親も（身の丈に合っていない）。集団生活（社会）で学ぶことを意識していない親が増えた〕
B3	児童会館	チャレンジを楽しむ第一歩を踏み込めない子どもが多い。「できること」はやるが、「できない」ことはやりたがらないこともある。甘えてこない。無意識の我慢の蓄積を感じる。異なる年代との生活が少ないというか、下の子の世話をしないケースが見受けられる。保護者も、自分が見ていない時の不安が強くなっている気がする。「預けている間、イジメを受けていないか？」という不安を訴える母親が多い。逆の立場（イジメをしている）の考えはあまりいない

Q2【A・B】/3【C】 続き

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューア－による補足)
B4	児童会館	保護者の就労形態の多様化。子どもに関しては(強いていうなら)頭でっかちが多い〔情報が多く、経験がともなわない「頭でっかち」な子どもが増えた。親がスマホを与えているせい?食の多様化により、土日祝、早朝、延長の希望者が増えた〕
B5	NPO等	一人親(出産時からひとり)。誰も助けてくれる人がいない。親が高齢なので頼めない〔親の補助としての役割ありきでの利用が多い(核家族・一人親)〕
C1	保育士	親の意識、親の都合に子どもが合わせられている〔寝不足の子。親が遅くまで起こしている(夜のお出かけ、旅行明け等)〕
C2	保育士	子育て支援の増加。シングルでも頑張れるようになってきている〔ファミリーサポートの人がお迎え〕
C3	保育士	親と過ごす時間が短い。以前は「仕事が終わ次第お迎えに」と言っていたが、今は言うてはいけないといわれる〔「人を見て言い方を考えなさい」と指導される。親からの苦情に所が反応?〕
C4	幼稚園教諭	ゲームやスマホ、YouTubeの話題が普通に出てくる(5~6年前から)。20年前はオムツの子はいなかった。情報がすぐ変わる。グループLINE〔園が伝えたい言葉が変換されてしまうおそれがある〕
C5	幼稚園教諭	頑張らなくなっている。トイレットレーニング、離乳食など、丸投げ。育休を取っていても長時間預ける〔できない・やらない親が多すぎる。自分で調べない〕

Q3【A・Bのみ】 (アンケート結果:「子育てをされていて感じる悩み」を見て)子育て支援をしていて、特に問題・重要だと思った「悩み」の内容を教えてください。

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューア－による補足)
A1	保育士	発達に対して情報が多すぎ。何を信じていいのかわからない。母親の役割が多すぎる(核家族)。子どもが少ないため、過保護・過干渉。子どもに対しての見る目が少なく、偏った養育になっている。子どもと一緒にいることを(子育てを)楽しめない〔地域で子育て支援が行われるとありがたいと思う。私自身はご近所に無償でお迎えしたり短時間預かってくださる、信頼できる方がいて仕事と子育てを両立することができた。子育てを楽しめない=しつけができない事と同一線上かもしれない。過保護だがしつけができていない例も増えた。例えば「食べさせてくれるのを待つ(自分で食べる習慣がない)3歳児」。「ばんそうこうはキズパワーパッドでないとダメだから園で用意してくれ」など〕
A2	幼稚園教諭	親同士つながり方。付き合い方〔自分と状況が似ている人としか仲良くなれない様子。働いている人同士、パート同士、専業主婦同士では仲良しだが、それを超えるとギクシャクする。一時期仲良くしておられても、LINEでトラブルになった事例もある。つながる仕組みが難しい〕
A3	児童会館	子どもの時間がない。家庭ごとの関わりの差〔やむを得ない状況はあるのだが、18~19時にお迎え、21時には寝るとなれば、一緒にいる時間は2時間しかなくなる。アウェイ育児と祖父母のいるホーム育児の格差〕
A4	NPO等	子どものことを夫に相談できない。相談相手がいない〔労働時間が長いから〕
A5	NPO等	孤立。精神的・経済的・時間的余裕の無さ。いつでもどこに住んでいても困ったときに駆け込める場が無い。その家族に寄り添って気軽に相談に乗ってくれる人がいない〔親子が地域から見守られる仕組みが必要〕
B1	保育士	周り比べてしまうことによる不安。日々の生活での疲れや不安、イライラを子どもにぶつけてしまう〔普通の会話から違和感に気づくことが多い。他の親と自分を、他の子と自分の子を比べてしまう。発達障がい?でも違うかも、となかなか受け入れられない〕

Q3【A・Bのみ】続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
B2	幼稚園教諭	「叱る」と「怒る」の具体的な分別。保護者自身が理想としている“母”像が高く、叱るたびに落ち込む。また、叱っていても子どもに響いていないことに気づいてない？気づいていても別の手法が取れないケースがあるのでは…。子どもとの向き合い方を伝えることが重要。また、「明るい（無自覚な）ネグレクト」が増加〔「叱る」と「怒る」は違う→わかっているけどできない→落ち込む→子を叱れない。親との交流で叱り方をレクチャーしている。理想の子育て、メディア（たまひよ、すくすく子育てなど）の影響？ゲームで夜更かし→睡眠不足→食事抜き。親がそのことを悩んでいない〕
B3	児童会館	親の中での「理想の子育て」というものに縛られている（他人と比べて自分の子育ては正しいのか？）。調べてわかることには不安が無い。調べてもわからないことには不安が強い。「発達」は良い面悪い面両方あることを知らない親が多い。だから悩む〔「発達」に関して正解はない。だから悩む？少しでも親の相談に乗れるよう（不安を吐き出してもらおう）個別に対応している〕
B4	児童会館	「悩み」を悩みのままにしてしまうことが問題。悩みを吐き出せる（共有できる）場所を作る（解決できればそれが一番だが、話すだけでも）〔悩みを悩みのまま終わらせない。異変を少しでも察知できるようにする。保護者同士や保護者と職員との交流で少しでも解決の糸口が見つかるようサポートする〕
B5	NPO等	子育ての方法がわからない（いろいろな悩みにつながっている）。「正しい子育ての方法がある」と思っているのでは？また、支援サービスを受ける時のハードルが高いと感じる時も〔いろいろの子どもを見る（幼保、子育て広場等）ことで子育て方法の悩みを解決できるのでは？自由な時間が取れていない。疲れてしまって考え方が柔軟になっていない〕

Q4【Cのみ】 札幌市では待機児童の解消に向けて、保育所や認定こども園の整備等により利用定員の拡大に取り組んでいます、それによって、子育て支援の現場にどのような変化がありましたか？

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
C1	保育士	保育士不足。小規模から認定保育園に入るのが厳しく。入りたいのに入れないという声もあるので困っているのでは？〔0～2歳児が対象〕
C2	保育士	入所希望の増加。しかし現場では保育士不足。親対応も丁寧にすることが大切だが、保育士1人に対する子どもの人数が決まっているので。朝夕も子どもはいるので、職員は一層怪我無く安全を第一にしながら頑張っている〔産休の保育さんへの対処もある〕
C3	保育士	3歳になったら認定こども園に転園する子はいたが、またすぐ入ってくる〔増えていってるので足りていない。先生がいないのが一番の問題。ここ2～3年で一番の課題〕
C4	幼稚園教諭	2年制の2歳児クラス開設（母子分離）。母子通園のサークル実施（平成31年度、月2回、週1回）〔子ども一人一人を良く見たいので定員を減らしている〕
C5	幼稚園教諭	利用者が増大（長時間保育の増加）。働く親が増えた〔生活のためというよりは「遊び」「ぜいたく」のため。そのために預けて働くという意識〕

Q4【A・B】/5【C】 (1) 日々お子さんや子育て世帯と関わっていて、どのようなもどかしさ、大変さ、困難さを感じますか？(2) それはどうすれば解消できると思いますか？

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューア－による補足)
A1	保育士	国は子育て世帯にお金は出しているが、子どもには還元されていない。保護者の休日・時間の保障を国がしていく必要がある。一人の子どもに対して、保護のみの育児ではなく地域で育てる〔保護者への負担減、労働時間減がより重要では？〕
A2	幼稚園教諭	(1) 子どもの困り感や気持ちを伝えきれていない。他の子との違いとか発達心配とか。(2) 共に知る機会。時間的余裕〔伝えきれないのは、急いでいるから。「家では大丈夫ですから」といってダッシュで帰宅してしまう。もう少しだけお話をさせてほしい〕
A3	児童会館	子ども達の様子を見る時間を保護者に！引継ぎ・連携、地域と、各機関と！〔成長を見逃している。児童会館での成長ぶりを伝えたいけれども、ダッシュで帰宅されてしまう。なので発表会を開いて、成長を感じ取ってもらえるようにした。成長ぶりや発達の問題などを一番伝えたい人に限ってダッシュで帰宅する。子どもの成長を伝えるためには、親が話を聞く時間をとろうと思うメリットが必要。聞いたら役立ったというような。成長の共有を施設は大切にしたい。親御さんは逃げてしまう。親の生活パターンの変化で保育の場が変わるので、児童会館が感じた子どものことを引継ぎたい。できる範囲で保育園・小学校とは行っている。園のスタッフと親御さんたちが一緒に子どものことを学ぶ機会を作る〕
A4	NPO等	(1) マニュアルにとらわれすぎている。(2) 難しい。たくさん話をすること？〔子育てサロンは時間が限られる。地域のサロンなので心配そうな保護者を1人だけ手厚く対応することも難しい〕
A5	NPO等	今の子育て世帯が置かれている現状を支援者自身が学び、全体で共有する。批判しても始まらない。理解する、受け入れる、寄り添う。オーダーメイドで支援。子どもの育ちを親が主体的に継続的に学ぶ場や機会を各場で作る。常設(週5)拠点を増やす。地域の支援者同士・各機関同士がつながる(連携・協力)〔子育て支援団体はやはりどこも資金不足である。補助金が少ないことは否めない。誰でも来られる場所であるために、利用料をとるのではなく無料であることは大切だと考えている。不足分は運営者や積立金からの持ち出しが続いている〕
B1	保育士	本音が見えない保護者との関わり方。保護者に寄り添い、背景を知る。その上で少しずつ話をし、信頼関係を築いていく〔保護者との信頼関係を築かないとなかなか受け入れてもらえない(会話のペースは保護者の都合による)。何回も何回も説明する〕
B2	幼稚園教諭	その子の課題(マイナス面)を伝えるのが難しい。非常に抵抗感を覚える保護者が多い。園への不信感にもつながり悪循環。一般化した形式での発信・伝え方の必要性。例えば「こんなことがあった→このように育ってほしい。」と誰にでも起こりうるマイナス面を知ってもらふ機会が必要〔事例集などで事前に知らせる(個別や参観などで詳しく説明。書面にするだけだと読まない親もいるため)〕
B3	児童会館	(1) 職員の目線(広く全員)と保護者の目線(自分の子のみ)の違いからくる意見。(2) 目線の違いをお互いに理解して共に子育てをする働きかけ〔保護者が求めるものと施設の役割の違いを理解してもらうことが困難。日々の活動をより多くの保護者に見てもらふ(普段の様子を録画し上映会を行う)〕
B4	児童会館	(1) 規模が大きすぎて、子ども全員に行き届かなかつたり、職員が少なくて対応しきれなかつたり。(2) 職員の確保とそれに伴う資金面の援助〔子育てに関わる・サポートする人が少ない。男性職員1人増やすのに年間300万円かかる。現状の給与の2割増でないと職員が集まらない。今年1名雇ったが、給与が足りないため学童と兼務してもらっている(給与は市の補助と保護者の会費で賄う)〕

Q4 【A・B】 /5 【C】 続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
B5	NPO 等	断らない支援を続けること。たくさんの方が地域支援に興味を持てるように（社会の在り方）。困っている時に少しでも助けてくれる人がいない（解消にはならないけど、ひとまず助けてほしい）。次につなげる・解消できる方向を考える〔社会のあり方や働き方を変えて、子育てに関わられるようにする。個別のケースに対応するには人員が少ない（基本、要望は断らないため）。短時間だけでも地域で支え合い・サポートできるような仕組みがあれば〕
C1	保育士	気になる子どもの姿を親に伝え、姿を共有し、次に進められるように…。気になる子ども、増えている。（2）姿の共有・一致。なるべく早く。一緒に考えていきたい〔集団生活の場での他者との関わりの際に問題があることが多い〕
C2	保育士	（1）子どもの成長の確認を受け入れづらい保護者。（2）健診に関して、就学に向けてもう少し早く対応していきたい〔3歳児健診で、集団生活に関する質問をしていきたい。健診する人はきちんと教育を受けた人にしてほしい〕
C3	保育士	（1）手が出る子がいる。（2）親と子どもの時間が取れるようにすることで子どもが落ちつくこともある。発達検査受たり健診に行くべき〔（1）預けっぱなしの子どもに多い。（2）「行けばいいのに」という家庭に限って健診に行かない（5歳児）〕
C4	幼稚園教諭	（1）子どもの園での姿を受け入れてほしい。（2）適切な支援を早い段階から〔親が子の状況を認識してくれる（レアケースだが）〕
C5	幼稚園教諭	（1）0～2歳。小さな怪我やかみつきに対する寛容さが無くなってきている。（2）繰り返し、子どもの成長には必要な経験だという事を伝えていく〔「かみつき」は当たり前〕

Q5 【A・B】 /6 【C】 （1）最近のお父さんは積極的に子育てに関わっていると思いますか？（2）どうすれば／どういう働きかけがあれば、お父さんは今より積極的に子育てに関わるようになると思いますか？

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
A1	保育士	（1）YES（2）休みやすい環境。時間の余裕。社会全体で子育てに関われる仕組みを作る。育児休暇、時短勤務〔低所得者は余裕がない傾向にある。行事に参加しない〕
A2	幼稚園教諭	（1）関わっている人、そうでない人、どちらもあると思います。（2）楽しいと思えることがあれば。手応え、達成感、満足感など〔おやじの会とか餅つきの男手など〕のように、男性にとって明確な役割があればよいと思う。ママ友はできてもパパ友はできない。ママ友のつながりからパパ友もつながるように発展していけばよいと思う。男性には入りやすい場が必要。評価されることも必要。やっぱりお父さんじゃないと…と言われると弱い〕
A3	児童会館	（1）関わっている。（2）社会の仕組み。育休等が当たり前が取れるように。お父さん同士のつながり、おやじの会〔「男の育休カッコイイな！取れ取れ！」になれば良い〕
A4	NPO 等	（1）概ね関わっている。（2）子どもの成長を伝える。少しずつ喜びを共有する
A5	NPO 等	（1）YES ただし、気持ちはあるが状況が許さない場合もある。（2）土曜日にお父さんが来やすい仕掛けを作る（例：パパママちびっこ講座（土曜日開催・日常的に））。出番を作る（例：餅つき）。男性も来やすい雰囲気づくり（環境構成）
B1	保育士	（1）YES 以前よりも行事参加など、関心を持っている人が増えた。（2）父親に対して子育ての発信をしていく〔子育て情報の発信先。職員側にも母親ファーストの意識がある〕
B2	幼稚園教諭	（1）YES （2）子育て世帯の保護者を抱える職場に具体的なメリットを政策で保障する（企業単体ではなく、国レベルで）〔意識の差はあれど、一般的に父親の子育て参加は増えている。時短による給与削減からして違う。子育て世帯を含む部署やチームの給与アップを政策で保障〕

Q5【A・B】/6【C】 続き

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューア－による補足)
B3	児童会館	(1) 関わっていると思う。(2) 母親から、父親の子育てをどのように求めているのかを知ることが大切。父親同士の集まりを企画する(父親が集まりやすい雰囲気)〔父母の集いのイベントを施設側から提案〕
B4	児童会館	(1) YES (2) <u>行事へのお誘い。飲み会など</u> 〔飲み会は職員が個別に声かけ(おやじの会など)して実施。内容も子育てにつながるよう、職員がコントロールする〕
B5	NPO等	(1) YES (その人ごとの差は大きいとは思いますが)。(2) <u>働き方改革</u> 。子育てというより家庭生活全般を助け合う姿勢〔子育てだけ限るのではなく、家庭生活の中での子育てを、親も子ども(兄弟姉妹)も行っていく〕
C1	保育士	(1) YES (2) <u>父の育児時間。参加しやすい園行事などももっと考えてみては</u> 〔なかには1ヶ月育休をとったお父さんもいる〕
C2	保育士	(1) YES。ただ、休みでも保育園に預ける人がいる。(2) 休みの時は保育園が使えないなど、決まりを作る
C3	保育士	(1) YES (2) <u>父も育児時間が取れる国を目指して(制度を作る)</u> 〔見学にすらお父さんが来てくれる〕
C4	幼稚園教諭	(1) 比較的○ (2) <u>園として「おやじの会」、お父さんを巻き込む保育。参加する行事、一緒に遊ぶ</u> 〔イベント時に「親父の屋台」「もっとやりたいね」と言われる。お父さんを巻き込む工夫をしていく〕
C5	幼稚園教諭	(1) YES (2) <u>お父さんが参加したくなるような行事を考える(雪像づくり)</u> 〔「冬の親子レク」にて〕

Q6【A・Bのみ】 保育士や幼稚園教諭の離職防止や就職促進のための取組/子育て支援活動を継続していただくために必要な取組として、良いアイデアがあれば教えてください。

番号	職業・所属	回答内容(※〔 〕はインタビューア－による補足)
A1	保育士	勤務時間内の就労。有給休暇の確保。 <u>賃金アップ</u> (看護師並み)。小学校高学年から乳児の関わり、園サロンなど(年数回)。産休、育休、時短の充実。職員確保(人件費アップ)。子育て支援活動資金の充実。保護者負担減。社会的地位の見直し〔作り物や書き物は職場では時間不足でできない。家に持ち帰って作業している。保育士になるという親や先生が低賃金だからやめた方が良く、と引き留めるケースもよく聞く〕
A2	幼稚園教諭	処遇改善。 <u>給料、働く時間、人員配置</u> 〔出産、結婚で退職しがち。転勤族の妻など。7時~20時の運営なので、頑張る人に負担がかかりがち。保育士は家庭支援論を学んでいる世代とそうでない世代の違いで、最近の家庭に支援が必要な世帯への理解度の違いある。若い人の方が子育て支援のことを分かっている。しかし若い保育士は先輩に口を出せないし、年代の高い保育士は支援とは特別な福祉的なものとして見ている〕
A3	児童会館	社会的地位の向上と <u>給与アップ</u> 。業務の見直し。業務量を下げる。思った以上の業務量。やりがいでだけではできない世代〔児童会館のスタッフは学校の先生より下であると考えている保護者が多い。やりがいでだけでは働かない世代への人材育成の手法を変える必要がある〕
A4	NPO等	子育てサロンを楽しむこと。無理をしない
A5	NPO等	<u>地域子育て支援拠点に国の基準と同程度の補助金を!100万円は安い。持ち出していますが、もう限界。スタッフが保育園へ移っていく。やりがいでだけでは続かない。安定・継続的に運営できる補助金を!継続的に研修の機会を作りスキルアップを図って専門的知識を得て、誇りをもって子育て支援に取り組めるような環境づくり。子ども時代から乳幼児に触れる機会を作る</u> 〔NPOスタッフの高齢化。札幌市でも子育て支援などの研修はあるが、プログラムの内容が薄い〕
B1	保育士	人員の確保。もっと余裕を持った保育をしたい〔専門的なことも増えて、時間がどんどん少なくなっていく〕

Q6【A・Bのみ】 続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
B2	幼稚園教諭	「あこがれの職業」なのに離職が減らない…。業種別ではなく、一般的な給与水準の2割以上高くないと。仕事内容を知ってもらうよう、メディアなどで大々的に取り上げてもらう。また、税金を投入する必要性を国民に広く理解してもらう〔あこがれは強いがやらない・辞める人が多い。仕事にプライドを持てるように促す〕
B3	児童会館	専門職としての立場を確立し給料を上げる（教諭や医師のように）。若い人は事務・総合職を希望している人が多い。中高生の時に子育て支援の仕事体験を増やし、興味を持ってもらう〔中高生に対し、子育て職に対する興味・関心を持つ機会を増やす〕
B4	児童会館	給料アップ。もしくは休日を増やす〔現在の給与水準を維持した上での休み増〕
B5	NPO等	子育て支援活動を運営するための資金援助。地域の人を巻き込む（60代後半の人）。やりがい・楽しさを発信していく〔子育てや定年退職した人の大量参加を促す〕

Q7【A・Bのみ】 子育て支援者同士・他の関係機関とのつながり・連携について、課題だと思っていることを教えてください。

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
A1	保育士	小学校の連携が増加してきたが、児童会館、児童クラブとは継続的な関わりが少ない。職員同士で一日体験など、施設でどのようなことをしているのか？興味・関心を持つ。子育てサロンや園での情報共有と現場への訪問。ケースワークとか実践へ〔小学校の先生は保育園の運営のようすを見学にきて状況を確認している。そうした連携が増えるとよい〕
A2	幼稚園教諭	お互い時間的余裕が無い（場所、時間）。つながることの良さ・大切さが共有されていない
A3	児童会館	お互いの調整。自ら動く。個人情報の共有の難しさ。行き来できる関係性〔今連携があるのは、親父の会や学校・幼稚園・高齢者施設・プレーパークなど。地域のお祭りへの参加や運営のお手伝いをしたり、高齢者施設ではデイサービスに行き高年齢者と触れ合うこともしている。連携するためには個人情報も必要になる。取り扱いのマニュアルやルールがあれば。近所の保育園の子どもたちは、成長すると児童会館にくることが多いので、保育園とは連携が深い〕
A4	NPO等	保健師さんなどの子育てサロンの参加を希望しているが…（年4回くらい）〔保健士配置人数の変更などがあり、前ほど頻繁に来られなくなってしまった。区との連携は良くできていると思う。今後様々な団体と機能をサポートし合える関係が広がって、支援者の支援をし合えるようになる〕
A5	NPO等	それぞれの概要は知っているが、中身の細かい部分までは知らないことがあった。（本日のお話から）。拠点の活動に必要なと思った専門職とのつながりは積極的に作ってきた（小児科医（発達専門）、乳幼児発達心理学者、助産師）。札幌の子育て支援を考える会（他団体と年4回の情報交換会）。北海道地域子育て拠点、メールリングリストを作って情報交換。札幌市利用者支援、専門員に毎月来てもらう（区の保健師、栄養士など）。学びの場を作り、一緒に学ぶ。地域（町内会）の総会・新年会などに参加し、知ってもらう・来てもらう〔医師や大学教授の協力を得るにあたっては、札幌大谷大学との連携の中で出会い、声掛けをした〕
B1	保育士	他の関係機関の現状を知ること。お互いに理解し合い連携していく〔児童相談所。もっとも関わりが強いはずなのによくわからない〕
B2	幼稚園教諭	本来業務に忙殺されて参加できないこと。つながりが個人または個々の施設レベルでしかできないこと。「研修」の位置づけ、キャリアアップの項目として保証する〔研修制度に他業種体験を加える〕
B3	児童会館	「地域での子育て」という現状なので、各施設が地域連携の必要性を感じており、ここ数年では特に課題を感じない。発展的である〔どの施設・機関も少しずつ連携が広がっていると思う〕
B4	児童会館	関わりを持つ第一歩をどうしたら良いかわからない〔知るための第一歩、どうしたら？〕

Q7【A・Bのみ】続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
B5	NPO等	（子育て関連の）他業種の方々との交流で全体像を知ること〔保育園や保健師、児童相談所など、少しでもつながりがあれば（名刺交換だけでも）〕

Q7【Cのみ】 保育士や幼稚園教諭の離職防止や就職促進のための取組について、良いアイデアがあれば教えてください。

Q8【Cのみ】 特に中高生が、将来の職業として保育士や幼稚園教諭をさらに目指すようになるような取組について、良いアイデアがあれば教えてください。

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
C1	保育士	給料を上げて。働けば若い人に家賃補助（市独自）とか〔最初の何年かだけでも（初任給安すぎ。休み取りづらい。残業となる）〕
C2	保育士	給料アップ。障がい児認定だけでなくグレーの子どもにも補助金を。保育士1人に対する子の人数、監査をもっとゆるく〔書類作成が大変〕
C3	保育士	給料アップ
C4	幼稚園教諭	賃金アップで人間関係良好〔賃金が上がると心に余裕がでてくるので。給料安いのに人間関係悪かったら…。先輩が新人をしっかりサポート〕
C5	幼稚園教諭	中高生のインターンシップ〔現在も中高生のボランティア体験を1～2回行っている。1週間くらいあればベター。高校生の方が就職近いのでベター（中学生より）。幼稚園先生、保育士→遊んでいるだけのイメージが持たれている。それを変えるための取組としてインターンやボランティア体験は大切〕

Q8【A・B】/9【C】 子育て世帯に対する支援として、（より）必要だと思う取組を教えてください。

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
A1	保育士	病児保育の充実とサポート代軽減。送迎時のサポート代軽減。身近な子育てサロンの充実。情報の明確化。親子で参加できる子育て講座。ラフに参加できる場の提供。三世帯世帯の促進（世帯に報酬あり）〔病児保育は1日で1万円くらいかかったとしても、利用する人は多いと思う〕
A2	幼稚園教諭	働き方、時間、有休。子どもと関われる時間の確保。子育てを共に楽しむ。地域資源の活用〔短時間勤務→給与減だと余裕無し。地域資源＝人！〕
A3	児童会館	父母ともに時短できる当たり前の社会へ！経済（お金）支援。地域とともに0～18歳まで利用できるスケールメリットを他団体と連携を！地域とともに！父母の支援を〔地域資源や施設間の連携促進。子ども・支援者・父母・地域が互いにWinWinになれるような連携づくり〕
A4	NPO等	寄り添う子育てサロンの継続〔親御さんにどう参加してもらうか。来ない人達が問題。保育士さんと連携すると来てくれるようになることもある〕
A5	NPO等	地域子育て支援拠点。中学校ごとに週5回開催。他都市の先進事例を見学に行き、市の計画に取り入れてほしい。民間に委託、補助の金額を国の基準で算出して、質の向上を図る。研修やイベントを官民で一緒に企画運営する。連携がうまれる。児童デイサービスに適切につないでくれる仕組み（部署）。その親子のニーズに寄り添いながら最後まで責任をもってつなぐ役割。縦割りから横串へ。児童デイサービスに行くことを勧められながら探さなければならない現状がある
B1	保育士	悩みを吐き出せる人や場所を用意する。様々な機関との連携〔悩みを気軽に相談できる場所の確保（保育園ではやっている）。（例えば時間外でも）継続して対応していく〕
B2	幼稚園教諭	子どもを遊ばせることができる屋内施設（相談員常駐）。無料または安価な送迎タクシー。もしくは巡回バスの提供〔安価で遊べる場所に相談員がいれば…。遊び場までの交通手段の提供（タクシーチケットなど）〕
B3	児童会館	子育ては親・施設で行う。親は子育てをゆったりできる。知識を身につけれる。施設はスキルが向上する〔子育て世帯にとっては住みにくい街（ハード面）。ベビーカーが押しづらい・停める場所がない。スキル（ソフト面）向上によって、親に対するアプローチ方法を学ぶ〕

Q8【A・B】/9【C】続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
B4	児童会館	多様化するニーズに応えられる受け皿をつくること〔保育料が高くて断念する人が多い（他の選択肢が無い）。早朝や放課後、夜間などのニーズに対応できる施設を増やす〕
B5	NPO 等	経済的支援。利用できる支援の拡大〔地域全体で子育てしていけるようになれば良い。サービスは増えても子どもは減っている。どこかに原因があるので？何でも無料ではなく、有料でも利用したいサービスを増やす〕
C1	保育士	親が安心して働けるよう（ちょっとした認定）保育園などを増やす。子育てに関して相談できる場などを増やす〔無資格者対応、ビルの一室（無認可）ではなく。すごく増えている。大丈夫？〕
C2	保育士	親子で関われる時間。関わり方を体験できるレクリエーションなどの継続。地域の人への保育士さんの訪問回数の増加など〔施設イベントを紹介してあげるなど、社会とかかわるきっかけづくりを。ぼかぼかサロン（保育園の取組）や児童会館、子育て・地域サロンについて紹介〕
C3	保育士	病気の子どもを預かるようにする。働きやすい社会を…。ワンオペ育児にならないように〔保育園や幼稚園に入らない子〕
C4	幼稚園教諭	横のつながりが持てるきっかけづくり。公園の整備の仕方を変える（ボール投げOKなど）〔サークルづくりの支援。以前、市の取組としてやっていた（仲良し子ども園）。「館」としても良い制度だった（保育士さん付き）。子育てサロン＝地域の人、だとしても限界がある〕
C5	幼稚園教諭	通園していない家庭への支援。具体的な子育て相談窓口（例：トイレトレーニングや離乳食等）〔来る人は良いが、来ない人はどうするか。施設増だけでなく、人育てもきちんとやって！「自分から動けない」若者が増えている。「人」として育ってない若者が多すぎる。養成校も嘆いている。幼保と小学校との連携をもっと進める。小学校の先生をもっと知ってほしい（幼稚園や保育園のことを）。〕

Q9【A・Bのみ】 最後に、子育て・子育て支援に関して「札幌市にこれだけは訴えたい！」ということがあるらば。

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューア－による補足）
A1	保育士	人件費増加。保育士とそれに対する子どもの人数をスウェーデン並みにしてほしい。監査に対して書類を簡素化してほしい。処遇改善と園児に対して教育・保育時間の減少。保護者の労働改善にもつなげて〔先生の負担軽減。スウェーデンは保育士1人で10人。日本は1人で30人。スウェーデンレベルになることが望ましい〕
A2	幼稚園教諭	子育てには最強の街になって！必要な所に補助金を！（保育士、幼稚園教諭に札幌市独自の手当とか）〔「子育て頑張っている世帯」手当〕
A3	児童会館	各現場を見に・体験しにきてください。頑張っている団体の人への支援を大切に！（人・物・金）
A4	NPO 等	子育てサロンの助成金の使い道を広めてほしい〔助成金への縛りが多い。やむを得ないのは理解しているが、「お菓子」などがダメなのはわかるが、子どもたちと一緒に料理を体験するちらし寿司などの食材費もダメなのは辛い〕
A5	NPO 等	協働の視点。他都市の取組から学ぶ視点を求めます。官民が学び合いつながり合う仕組みづくり。拠点事業（第2社会福祉事業（児童福祉法））とサロンの整理。意義・役割の明確化。要綱の作成。発達の道筋の見直し。（保健センター）おすわり練習×（母子手帳）→はいはいの後におすわり〔柔軟に子どもの発達を受け入れられるように〕
B1	保育士	子育てしやすいまちに〔具体的には保育士を増やしてほしい〕
B2	幼稚園教諭	この業種に対する地位向上の取組。給与面はもちろん、子育てに携わる仕事とそのサービスを受けることの必然性と重要性を、メディアを活用してアピールしてほしい（税金を投入することに対する市民の理解を得るために）〔市独自の子育て施策をつくる。札幌出身の（子育て中の）有名人やスポーツ選手にPRしてもらう〕

Q9【A・Bのみ】続き

番号	職業・所属	回答内容（※〔 〕はインタビューアーによる補足）
B3	児童会館	専門職という認識で働く人に対して親切なまちであってほしい（現場への理解。「毎日大変だ」）〔子育てや保育の現状をより深く知ってほしい〕
B4	児童会館	子どもはどこに通っていようが何していようが同じ札幌の子ども。子どもに差がつかない政策を〔教育や支援で子どもに差がつかないように〕
B5	NPO 等	子育てや子育て支援、子どもの成長のための予算を増やしてほしい〔国では足りないところは市が支援する〕